

2022/3/8

(うと Q 世話し インテリ然と) 書庫版



折角受けた高等教育の成果使用先に公私の選択すらせずいきなり自身の栄達やひけらかしの道具として使い始め公の為に資する事を考えもしない。そのくせ表向き「御為(おんため)」と遜ってみせその実態は実は「ごかし」

裏は優越意識満開

是は昨今のインテリ像。

そも「インテリ」は和製英語の様に外国人に

「インテリは好かん」

I don't like "INTELI"

といっても

What?

でした。

結果、未だ妥当な英訳が思い浮かびません。

強いて言うなら

I don't like analyst

I don't like commentator

と職種を一つ一つ言うか

I don't like only by mouse guy (口先野郎は好かん)

I don't like tyrant behavior guy (エラソな奴は嫌いじゃ)

とインテリの嫌な面を

是又具体的にキャラを示して言うしかないのかな?と。

話は変わって我が国ではインテリを別表現で「知識層」とも言います。

「先生、センセ」の政、法、学、医界の雲上部。

「担がせた神輿の上から目線」族です。

一方インテリの語源である英語 intelligent、intelligence の本来の意味は「知性（的な）」です。

御覧の通り「知識」という言葉は出てきません。

第一「知識」と「知性」は全く別物です。

知識があるからと言って必ずしも知性があるとは限らないからです。

我が国では知識ばかりあって知性のない人の事を「教養の俗物」ともいいますし。

以下は自分がよく使う式ですが

知識 X 経験 = 智慧（知性）

であるとすれば

知識獲得の目的が「私利私欲や自分の都合」に根差したものであれば経験を積めば積む程その集積結果は「悪智慧」にしかならないという事になりそうです。

逆に言えば「公に資する」事を目的として経験を積めば其れは智慧（wisdom）になると。

本来はそうあってほしいのですが現時点では前者の方が圧倒的に優勢の様です。

この傾向を我々は肌感覚で理解しているので「インテリが好きではない」のだと思います。

大卒を一括して「インテリ」と呼ぶなら自分もインテリの端呉ではあるのですが

「あんた、インテリやぁないの」

と言われると何かとても複雑な気分になります。

話がそれました。

基。

そういえば最近 AI（Artificial intelligence 人工知能）が話題になっております。

ここでは intelligence は「知性」ではなく「知能」と訳されております。

昔話ですが自分が子供の頃に IQ テスト（知能テスト）というのがありました。

スコアが余りにも悪く

「やっばオメ、アホやねんなぁ」と友達に言われたトラウマからでしょうか

今思い出してもブルーな気分になります。

又々話が逸れてしまいました。

処で IQ をフルにすると Intelligence Quotient（知能指数）となります。

内訳は生活年齢指数 + 精神年齢指数だそうです。

AI の訳語として「人口知性」は流石に変ですが、知能の内訳が上記だとすると「人工知能」というのも何か違和感を覚えます。

何故なら機械には生活も精神もないからです。

となると AI とは一体何なのか？

余りにも安易に“intelligence”の語を当てたが為の見過ごしや思い込みがあるかも。

此の疑念には価値があるかも。

反面、今迄一度も疑いもしなかったが故に却って「難問」
面白くなって来ました。